

＜事例4＞ 即興的にリズムを選んだりつなげたりする音楽づくりの学習の事例

第2学年「いろいろな楽器の音を探そう」

(指導要領との関わり：A表現(1)歌唱ア、イ、ウ(ウ) (2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ウ) (3)音楽づくりア(ア)、イ(イ)、ウ(ウ) B鑑賞 ア、イ)

(児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素) 音色、リズム、呼びかけとこたえ

1 題材 いろいろな楽器の音を探そう (6時間扱い)

2 題材の目標

- (1) 楽器の音色と演奏の仕方との関わりに関付き、楽器の音色やリズムに気を付けて声や音を合わせて演奏したり、即興的に表現したりする技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 楽器の音色やリズム、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、楽器やリズムの組み合わせ方について思いをもつ。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 楽器の音の響きや組合せの面白さに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組み、いろいろな楽器の音色に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 楽器の音色と演奏の仕方との関わりに関付いている。(鑑賞・器楽) ②技 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。(音楽づくり) ③技 音色やリズムに気を付けながら、声や音を合わせて演奏する技能を身に付けて、歌唱や器楽で表現している。(歌唱・器楽)	①思 ①音色やリズム、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさ、面白さなどを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ている。(音楽づくり)	①態 ①楽器の音の響きや組合せの面白さに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。(器楽・音楽づくり・鑑賞)

ウ(ウ)を選んだ場合

4 指導と評価の計画 (全6時間)

*丸数字...全員の学習状況を記録に残す場面

時	○学習内容 ・学習活動 音楽づくりに関わる部分のみ抜粋 3～5時間目/全6時間	評価規準		
		知技	思	態
3	○友達と呼びかけとこたえを使ってリズム遊びをする。			
4	○ペアでつくったリズムを発表し合う。 ・音色やリズムを試しながらリズムを演奏したり、発表を聴き合ったりする。		① 発言	
5 本 時	○楽器とその音色の特徴に合うリズムを選び、即興的に表現する。 ・教師や友達とリズムをつなげて即興的に表現する。 ・発表を聴き合って、意見を交換する。	② 聴取		① 観察

5 本時の展開 (5/6時間目)

○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と【評価方法】
○楽器とその音色の特徴に合うリズムを選び、即興的に表現する。 ・本時の学習のめあてを確認する。 ・音楽づくりの条件を確認する。 ・リズムパターンからリズムをえらぶ。 ・ともだちとつなげてえんそうする。 4はく 4はく 4はく 4はく ----- ----- ----- ----- Aさん Bくん Aさん Bさん ・教師や友達とリズムをつなげて演奏する。 ・発表を聴き合って、意見を交換する。 ・本時のまとめと振り返りをする。	○前時の学習を想起させ、本時の学習と関連付ける。 ○図や絵で示すなどして、音楽づくりの条件を可視化する。 ○リズム伴奏音源を用いて、自然と拍にのって演奏ができるようにする。 ☆②【聴取】 ○つまずきが見られそうな児童には、演奏がしやすいリズムパターンに導いたり、同じリズムを繰り返したりしてもよいことを助言する。 ○教師の声かけや対話により、優れた表現や発想を児童に気付かせるようにする。 ☆①【観察】 ○前時からの変容を加味して評価する。

音色やリズムをえらんで そつきょうえんそうしよう。

ICT活用

P126 指導計画作成の留意事項②

ア 題材の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

題材の指導計画の作成に当たっては、実際に音を出す活動を十分に確保し、感性を働かせながら音遊びができるように活動を工夫する。活動に当たっては、楽譜などの知識を習得してから音遊びの活動に入るといった一方向的な指導にならないように配慮する。

イ 学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

学習評価に当たっては、テスト等の一場面のみで評価するのではなく、授業のはじめと終わりの変容を見取ったり、題材を通じて総合的に評価したりするなど、評価の機会や方法を工夫する。その際には、ICT機器を活用し、録音や録画を評価に加味することも効果的である。

ウ 評価に基づく改善のポイント

音楽づくりの評価に当たっては、記録に残す評価だけではなく、即時的な声かけで評価したり、児童の演奏や言動を音楽的に価値付けたりするなどして、指導と評価の一体化を図りながら、児童の活用力や思考力を高められるように教師の声かけや発問に配慮していく。また、学習指導要領に示されているように友達の表現を自分の表現に生かすように導くことも教師の大切な役割となる。

＜事例5＞ プログラミング的思考の伸長をねらった音楽づくりの学習の事例

第5学年「いろいろな音色を感じ取ろう」（8時間扱い）

（指導要領との関わり：A表現(2)器楽ア、イ(7)(イ)、ウ(ウ) **③音楽づくりア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)**、B鑑賞 ア、イ）

（児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づけている要素） **リズム、音色、反復、呼びかけとこたえ**

1 題 材 いろいろな音色を感じ取ろう（8時間扱い）

2 題材の目標

- (1) リズム、音色、反復、呼びかけとこたえなどと曲想との関わりを理解して、音が重なり合う響きに気を付けて音を合わせて演奏する技能や、音色や音楽の仕組みを生かして音楽をつくる技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- (2) 楽器の音の組合せ方や重ね方、リズム、音色、反復、呼びかけとこたえを用いてどのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもつとともに、曲や演奏のよさなどを見いだしたりしながら曲全体を味わって聴く。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 様々な楽器の響きや、リズムのつなげ方、重ね方のよさや面白さに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組み、いろいろな音色に親しむ。〈学びに向かう力、人間性等〉

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 知リズム、音色、反復、呼びかけとこたえなどと曲想との関わりを理解している。（鑑賞・器楽）</p> <p>② 技思いや意図に合った表現をするために必要な、音が重なり合う響きに気を付けて音を合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表現している。（器楽）</p> <p>③ 知技楽器の音色、リズムのつなげ方や重ね方の特徴が生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解し、<u>思いや意図に合った表現をするために必要な</u>、音楽の仕組みを用いてリズムアンサンブルをつくる技能を身に付けている。（音楽づくり）</p>	<p>思①リズム、音色、反復、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（音楽づくり）</p>	<p>態①さまざま楽器の響きや、リズムのつなげ方、重ね方に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽を演奏したり、リズムアンサンブルをつくったり、聴いたりする学習に取り組もうとしている。（器楽・音楽づくり・鑑賞）</p>

ウ(イ)を選んだ場合

4 指導と評価の計画（全8時間）

*丸数字...全員の学習状況を記録に残す場面

時	○学習内容 ・ 学習活動 音楽づくりに関わる部分のみ抜粋 6～8時間目／全8時間	評価規準		
		知技	思	態
6	<p>○いろいろな打楽器の音色や響きの組合せを楽しむ。</p> <p>・ 楽器の音色に合わせて、提示するリズムを演奏する。</p> <p>・ 音色を組み合わせて響きを確認する。</p>			
7 本時	<p>○反復、呼びかけとこたえ、音の重ね方などに気を付けて音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくる。</p> <p>・ 音色の特徴に気を付けながら、グループで相談しながら楽器を選ぶ。</p> <p>・ 音色の組合せやリズムの重なり方に気を付けて、グループで音を重ねて演奏する。</p>			
8	<p>○どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <p>・ 演奏を聴き合うなどして、批評し合う。</p> <p>・ ワークシートに考えをまとめる。</p> <p>・ 題材を通じて、まとめと振り返りをする。</p>	③ 知技 聴取・発言	① 記述・発言	① 観察・記述

P126 指導計画作成の留意事項(2)(5)

5 本時の展開 (7/8時間目)

○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と【評価方法】								
<p>○反復、呼びかけとこたえ、音の重ね方などに気を付けて音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくる。</p> <p>・本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくろう。</div> <p>・音楽づくりの条件を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①11回、くり返してつくる。 ②終わり方は、のリズムにする。 ③グループで工夫すること。 ア) くり返しや変化 イ) 呼びかけとこたえのようなリズムの組合せ ウ) 重ね方やつなげ方 </div> <p>・グループのリズムアンサンブルをつくる。</p> <p>・演奏を録音したり、聴き合ったりして、批評し合う。</p>	<p>○前時の学習を想起させ、本時の学習と関連付ける</p> <p>○音楽の仕組みを絵で示し、可視化する。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>だんだん 増える を使った例</td> <td>○ ○ ○ ○ △ △ △ □ □</td> <td>呼びかけと こたえ を使った例</td> <td>○ ○ △ □ △ □</td> </tr> <tr> <td>だんだん 減る を使った例</td> <td>○ ○ ○ ○ △ △ △ □ □</td> <td>くり返し を使った例</td> <td>○ ○ △ △ □ □</td> </tr> </table> <p>○演奏を録音したり、録画したりするなどして、演奏の振り返りができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ICT活用</div> <p>☆③知技【聴取・発言】</p> <p>○本時の活動状況を記録しておき、次時とあわせて評価する。</p> <p>☆態①【観察・記述】</p> <p>○粘り強く学習に取り組んでいるか観察したり、ワークシートの記述を見たりして次時と併せて評価する。</p>	だんだん 増える を使った例	○ ○ ○ ○ △ △ △ □ □	呼びかけと こたえ を使った例	○ ○ △ □ △ □	だんだん 減る を使った例	○ ○ ○ ○ △ △ △ □ □	くり返し を使った例	○ ○ △ △ □ □
だんだん 増える を使った例	○ ○ ○ ○ △ △ △ □ □	呼びかけと こたえ を使った例	○ ○ △ □ △ □						
だんだん 減る を使った例	○ ○ ○ ○ △ △ △ □ □	くり返し を使った例	○ ○ △ △ □ □						

ア 題材の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

プログラミング的思考の伸長をねらった指導計画の作成に当たっては、論理的に考えながら表したい音楽表現に近づけるために、リズムパターンを並べたり(シーケンス)、何度も繰り返したり(ループ)、リズムパターンや音色を入れ替えたり(条件分岐)、並べたリズムのよさや面白さ、違和感を感じ取ったり(デバッグ)する活動を設定するなどしてプログラミング的思考の伸長をねらいながらも、音楽科の目標や本時のねらいに即した題材の指導計画の作成が必要となる。

イ 学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

ワークシートを活用して評価する場合には、指導のねらいに即し、必要に応じて作品を記録できるようにする。作品を記録する方法については、図や絵、五線譜など柔軟に指導する。また、思考力、判断力、表現力等の評価に当たっては、文章で記述させる方法や選択肢から選ぶ方法、授業の中で教師と児童、児童同士の対話を評価に加味する方法など、評価の方法や機会を工夫する。

ワークシート例

打楽器の音色や音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルをつくろう。

年 組 氏名 _____

1 つくる 教科書○ページのワークシートを使って、グループの音楽をつくりましょう。

2 見直す 音楽がつくれたら演奏してみましょう。演奏してみて、もっと工夫したい、直したいなど思うところを相談しあいましょう。

選択肢での記述を思考・判断・表現の評価に加味する。

3 振り返る

(1) あなたは、どんな工夫を考えましたか? 考えた人は、何回目を工夫したかもあわせて記入しましょう。

ア) くり返しと変化	よく考えた・少し考えた・あまり考えられなかった	() 回目の部分
イ) よびかけとこたえ	よく考えた・少し考えた・あまり考えられなかった	() 回目の部分
ウ) 音の重ね方	よく考えた・少し考えた・あまり考えられなかった	() 回目の部分

(2) グループでつくった音楽の中で、一番聴いてほしいところを紹介しましょう。

態①を見取る部分

(3) 題材を通した振り返り

①友達と協力しながら、音楽づくりの学習に楽しんで取り組んだ。	◎ ○ △
②リズムのつなげ方や重ね方をもっと工夫してみたいと思った。	◎ ○ △

選択肢での記述を主体的に取り組む態度の評価に加味する。

ウ 評価に基づく改善のポイント

児童によっては、演奏の技能が十分でない状況も考えられる。その際には、リズムカードを用意して組合せを簡単に入れ替えられるようにしたり、タブレットのアプリケーションを用いて端末上でつくった音楽を聴いたりできるようにしたりするなどして、技能を補えるような支援を適宜用意する。

＜事例6＞ 効果的な手立てを工夫した鑑賞の学習の事例

第3学年「いろいろな音のひびきをかんとろう」

(指導要領との関わり：A表現①歌唱ア、イ、ウ(ウ) ②器楽ア、イ(イ)(イ)、ウ(イ)(イ) ③音楽づくりア(ア)(イ)、イ(イ)(イ)、ウ(イ)(イ) **B鑑賞 ア、イ**)

(児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素) 音色、旋律、音の重なり、拍、反復

- 1 題材 いろいろな音のひびきをかんとろう (9時間扱い)
- 2 題材の目標
 - (1) 楽器の音色やその組合せ、旋律の特徴などと曲想との関わりに気付くとともに、楽器の音色の特徴を生かして互いの音を聴き合いながら演奏したり、楽器の組合せ方や音の重ね方を生かして音楽をつくったりする技能を身に付ける。(知識及び技能)
 - (2) 音色や旋律の特徴が生み出すよさなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律の楽器の音色を生かした演奏の仕方や、旋律や歌詞から場面を思い浮かべて歌うことや、音の重ね方や反復など音楽の仕組みを用いた音楽の作り方について思いや意図をもつ。(思考力、判断力、表現力等)
 - (3) 楽器の音色や旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現や鑑賞の学習活動に取り組み、音を聴き合いながら演奏したり、楽器の組み合わせ方や重ね方を工夫して音楽をつくったりする学習に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)
- 3 教材 「トランペットふきの休日」「アレグロ」「パフ」「おかしなすきな まほう使い」「まほうの音楽」
- 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 楽器の音色の違いや旋律の特徴、反復と曲想との関わりに気付いている。(鑑賞)	思 ①音色や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いている。(鑑賞)	態 ①音色や旋律などの特徴と曲想との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。(鑑賞)
② 知技 音色や旋律の特徴などと曲想との関わりについて気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)	思 ②音色、旋律、音の重なり、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、演奏の仕方や音量バランスなどを工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(歌唱・器楽)	態 ②音色や旋律の特徴などと曲想との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・器楽)
③ 知技 音色や音の重なり、旋律の特徴などと曲想との関わりに気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律を聴いて音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。(歌唱・器楽)		態 ③楽器の音の特徴や音色を生かした即興的な表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。(音楽づくり)

5 指導と評価の計画 (全9時間)

時	○学習内容・学習活動 鑑賞に関わる部分のみ抜粋 1～2時間目/全9時間	評価規準		
		知技	思	態
1 本時	○金管楽器の形や音色の違いに関心をもつ。 ・写真や金管楽器を演奏している映像で、形や特徴、音色の違いを感じ取る。 ○旋律の反復に気を付けて音楽を聴き、トランペットの音色の特徴を感じ取る。 ・「トランペットふきの休日」の全曲を通して聴きながら、主な旋律が聴こえたところで挙手をしたり、図形楽譜を指でなぞったりする。 ・ワークシートにまとめる。			
2	○トランペットとホルンの音色の違いに気付いて聴く。 ・トランペットとホルンの楽器の構え方や音色の違いを確認する。 ○旋律の反復に気を付けて音楽を聴き、ホルンの音色の特徴を感じ取る。 ・「アレグロ」の冒頭の旋律を口ずさむ。 ・全曲を通して聴きながら、主な旋律が聴こえたところで挙手をしたり、図形楽譜を指でなぞったりする。 ・気付いたことを話し合い、音を聴いて確かめる。ワークシートにまとめ、意見交換する。 ○トランペットとホルンの音色を楽しんで聴く。 ・「トランペットふきの休日」と「アレグロ」を全曲通して聴く。	①知 発言・記述・観察	①思 発言・記述・観察	①態 発言・観察

6 本時の展開 (1/9時間目)

○学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と【評価方法】
<p>○金管楽器の形や音色の違いに関心をもつ。</p> <p>・「トランペットふきの休日」の冒頭を聴き、気付いたことや感じたことを発表する。</p> <p style="text-align: center;">金管楽器のひびきに親しもう</p> <p>・写真や金管楽器を演奏している映像で音色の違いを感じ取る。</p> <p>○旋律の繰り返しに気を付けて音楽を聴き、トランペットの音色を感じ取る。</p> <p>・「トランペット吹きの休日」の冒頭の旋律を口ずさむ。</p> <p>・全曲を通して聴きながら、主な旋律が聴こえたところで挙手をしたり、図形楽譜を指でなぞったりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>様々な視点で音楽を聴く活動を行うことができるように、音楽を聴く活動に変化をもたせる。</p> </div> <p style="text-align: center;">P126 指導計画作成の留意事項(2)</p> <p>・気付いたことを話し合い、音を聴いて確かめる。</p> <p>・トランペットの音色を言葉で表す。</p> <p>・トランペットの音色を楽しみながら「トランペットふきの休日」を全曲通して聴く。</p> <p>・本時のまとめと振り返りをする。</p>	<p>○写真等を見せずに、音に集中して聴くようにする。</p> <p>○楽器の演奏をまねしたり、拍を感じて体を動かしたりしながら聴けるようにする。</p> <p>○楽器の大きさ、管の長さや形、楽器の構え方などに注目して、違いに気付くようにする。</p> <p>○旋律やトランペットの音色の変化を感じ取る手がかりとして、冒頭の主な旋律を口ずさめるようにする。</p> <p>○挙手をしたり、楽譜をなぞったりすることで、主な旋律を聴き取っていることを見取る。</p> <p>○図形楽譜を指でなぞる際には、全体で拡大楽譜を使ってゆっくりと何回か練習した後に行ったり、ペアで一緒にひとつの楽譜をなぞったりするようにする。</p> <p>○気付いたことは、必ず音を聴いて確かめるようにする。</p> <p>☆①知【発言・記述・観察】</p> <p>○記述に使う言葉は、音楽室に掲示してある言葉から選んで使ってもよいことを助言する。</p> <p>○ワークシートのみで評価することなく、発言や観察等、多様な場面で評価していく。</p>

ア 題材の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

B鑑賞は、〔児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕音色、反復を取り上げ、これを中心に音楽的特徴を可視化しながら鑑賞の活動を進めていく。また、金管楽器の音色に着目しトランペットとホルンの音楽を聴き比べることによって、それぞれの楽器の音色や響きの違いを感じ取れるよう、写真や映像、図形楽譜も活用する。さらに、音楽を聴く活動に変化をもたせ、音楽を聴く時間を十分に確保するよう配慮し、聴く活動と知覚したことなどを言葉で共有する活動を往還させながら鑑賞の活動が進められるよう、活動場面の設定や発問などを工夫する。

イ 学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

本題材は焦点化した要素として音色、反復を中心に、ねらいに即して体を動かす活動を取り入れるようにする。挙手や図形楽譜を指でなぞるなどの活動で、音楽の特徴である反復や変化を捉える学習を深めながら、主な旋律を聴き取っているのかを見取る。また、体を動かす活動を行い、聴く活動と知覚したことなどを言葉で共有する活動を往還し充実させ、ワークシートへの記入の手がかりとなるよう工夫する。さらに、発言内容や行動観察、記述など様々な方法で評価を行う。

ウ 評価に基づく改善のポイント

鑑賞においては、題材全体を見通して学習指導のねらいを実現した状況を明らかにし、学習活動における位置付け及び評価方法を具体的に想定し、評価ができるように指導計画と評価計画を工夫する。

《ワークシート例》

金管楽器のひびきにしたいしもう

3年 組 名前		
名前	トランペット	ホルン
形		
音色	きらきらした 明るい感じの音。	ふわふわした やわらかい感じの音
せんりつ	主なせんりつが、 何回もくりかえしたり、 変化したりしている。	主なせんりつが、 くりかえしている。

*おどろに、つたえよう

わたしは、トランペットふきの休日 アレグロ が すきです。

りゆうは、トランペット・ホルン が

きらきらした 明るい はなやかな感じの
音色でえんそうしていて

主なせんりつが何回もくりかえされたり、変化したりして
楽しい気持ちになる

からです。

①知を見取る部分

①思を見取る部分

第4 学習指導案の作成と評価及び授業改善

1 音楽科学習指導案の事例

＜事例7＞ 我が国の音楽「さくら さくら」を用いた、表現と鑑賞の関連を図る学習の事例
第4学年「日本の音楽でつながろう（7時間扱い）」

（指導要領との関わり：A表現（2）器楽ア、イ（イ）、ウ（イ）、（3）音楽づくりア（イ）、イ（イ）、ウ（イ）、B鑑賞ア、イ）
（児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素）音色、旋律、音の重なり、音階、反復

第4学年1組 音楽科学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時
在籍数 〇〇名
授業者 教 諭 〇 〇 〇 〇

1 題材名 日本の音楽でつながろう

2 題材について

本題材の学習に関わる児童の実態を記入する。

(1) 児童の実態（略）

(2) 題材について

本題材は、日本の楽器の音色の特徴を感じ取ったり、日本の音階に親しみながら、まとまりのある音楽をつくりたりできるようにすることをねらいとしている。教材は、和楽器（箏・三味線・三線）の楽曲や、日本の音階を使った音楽づくりを扱う。また、表現と鑑賞の活動を関連させながら、日本の音楽に親しむことのできる指導展開を計画する。

指導に当たっては、箏・三味線・三線の楽器のつくりと演奏の方法などの知識を参考にして、音色の特徴を感じ取らせる。また、箏・三味線・三線の曲を聴き比べることによって、音色の違いを感じ取れるようにする。さらに、箏の演奏と鑑賞の活動を関連させることで音色の特徴を感じ取ることができるようにする。音楽づくりでは、既習曲の「こきりこ」の旋律に使われている日本の音階に気付かせ、『5つの音で、せんりつづくり』へとつなげていく。日本の音階に親しみながら音を音楽へと構成したり、反復などの音楽の仕組みを用いたりして音楽づくりができるようにする。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、我が国の郷土の音楽に着目し、学習指導要領のA表現（2）器楽ア、イ（イ）、ウ（イ）、（3）音楽づくりア（イ）、イ（イ）、ウ（イ）、B鑑賞ア、イを指導するものとする。

3 題材の目標

- 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くとともに、音色や響きに気を付けて楽器を演奏する技能や、日本の音階から音を選んでまとまりのある旋律をつくる技能を身に付ける。（知識及び技能）
- 箏・三味線・三線の音色や音楽の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら聴いたり、旋律の音の動きを生かして、つなげ方の工夫をしてどのようにまとまりを意識した旋律をつくるかについて、思いや意図をもつ。（思考力、判断力、表現力等）
- 日本の楽器の音や音楽への興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に箏・三味線・三線の音楽を聴いたり演奏したりする学習活動に取り組み日本の音楽に親しむ。（学びに向かう力、人間性等）

4 教材について

- ことの独奏による主題と6つの変奏「さくら」より 藤井凡大 作曲（箏）
- 「津軽じよんがら節」青森県民謡（三味線）
- 「ていんさぐぬ花」沖縄県民謡（三線）
- ことをひいてみよう（「さくら さくら」日本古謡）
- 5つの音（ミソラドレ）で、せんりつづくり
- 「こきりこ」富山県民謡

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。 器楽イ（イ） 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり 器楽ウ（イ） 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 音楽づくりア（イ） 音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。 音楽づくりイ（イ） 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 音楽づくりウ（イ） 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能 鑑賞ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。 鑑賞イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。	
〔共通事項〕	ア	音色・旋律・音の重なり・音階
	イ	反復
具体的な学習活動	・箏・三味線・三線の音色や旋律の動きを感じ取りながら聴く。・箏の音色を生かして演奏する。 ・「こきりこ」を歌ったり楽譜を見たりして、日本の音階に気付く。・日本の音階を使って旋律をつくり、つくった旋律を友達とつなげる。	

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑賞）	思 ① 音色、旋律、音の重なり、音階、反復を聴き取り、それらの動きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだしながら聴いている。（鑑賞）	態 ① 日本の楽器の音や音楽への興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に箏・三味線・三線の音楽を聴いたり演奏したりする学習活動に取り組もうとしている。（器楽・鑑賞）
② 知 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器楽）	思 ② 音階、旋律、反復などを聴き取り、それらの動きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、つなげ方の工夫やどのようにまとまりを意識した旋律をつくるかについて、思いや意図をもっている。（音楽づくり）	態 ② 日本の音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に旋律をつくる学習に取り組もうとしている。（音楽づくり）
③ 知 音やフレーズのつなげ方の特徴についてそれらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、5つの音から音を選んでまとまりのある旋律をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（音楽づくり）		

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点	評価規準		
			知技	思	態
1	1次◆箏・三味線・三線の音色や音楽の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしなが ら聴いたり、音色や響きに気を付けて箏を演奏したりする。 ○箏・三味線・三線の音色を聴いて、そ れぞれの特徴を感じ取る。 ・「さくら さくら」「津軽じょんがら節」 「ていんさぐぬ花」を聴く。 ・箏・三味線・三線について調べる。	○最初は演奏の写真を見せず、音色に気を付けて聴 くことができるようにする。 ○楽器のつくりや演奏の仕方を知ることで、それら が音色の特徴と関わっていることに気付けるよう にする。 ○比べながら聴くことで、音色や旋律、使われてい る音階による旋律の違いにも気付けるようにする。	① 知 記 述 ・ 発 言		
2 3	○音色や響きに気を付けて箏を演奏す る。 ・箏の演奏の仕方を知る。 ・箏の楽譜の読み方を知る。 ・箏で「さくら さくら」を演奏する。	○糸の名前とその位置を実際に音を出しながら確か め、音の高さとともに理解できるようにする。 ○親指で糸の手前から向こう側に向かって爪を押 し付けるようにして弾き、次の糸に当てて止める ことや、その他の指の位置などのコツを知るこ とで、基礎的な演奏の仕方を身に付けられるよう にする。 ○グループやペアの友達に口唱歌で歌ってもらった り、響きを聴いてもらったりして、正しい音やよ い音色で演奏ができていいるか互いに確かめられ るようにする。	② 知 技 観 察 ・ 聴 取		
4	○箏の音色や音楽の特徴が生み出す曲や 演奏のよさなどを見いだす。 ・箏で「さくら さくら」を演奏する。 ・「さくら」を聴き、旋律と箏の音色や響 きが生み出す曲や演奏のよさを感じ取 って聴く。	○自分で演奏したときに感じ取った音色や音の響き を思い出させながら、音色のよさを味わって聴け るようにする。 ○旋律や音色や響きから情景を思い浮かべたり、曲 の構成のよさを理解したりしながら聴けるよう にする。	① 観 察 ・ 発 言 ・ 記 述	記 述	① 観 察 ・ 聴 取 ・
5	2次◆旋律の音の動きを生かして、つなげ方 の工夫について思いや意図をもって旋律をつくる。 ○5つの音から音を選んでまとまりのある 旋律をつくる。 ・リコーダーで、三音（ミソラ）を使っ て即興的に旋律をつくって遊ぶ。 ・「こきりこ」を歌い、5つの音が使われ ていることを知る。 ・5つの音（ミソラドレ）を使って旋律 を2つをつくる。 ・つくった旋律を、拍を感じて演奏でき るように練習する。 ・自分がつくった2小節の旋律カードを 作る。	○教師や他の友達がつくった旋律を反復して、日本 らしい旋律や終わりを感ずる音などを、楽しみな がら理解できるようにする。 ○楽譜を見せて5つの音で旋律がつくられているこ とを確認し、旋律が日本らしい雰囲気を出して いることを感じ取れるようにする。 ○旋律例を演奏し、ラまたはレで終わると終わった 感じがすることに気付けるようにする。 ○リコーダーで何度も演奏し、試しながら気に入 った旋律をつくれるようにする。 ○旋律をカードにすることで、8小節の音楽をつく るときに並べるだけで簡単につなげ方の工夫がで きるようにする。（各旋律3枚ずつ用意する）	③ 知 技 記 述 ・ 聴 取		
6 本 時	○旋律のつなげ方の工夫をして、どのよ うにまとまりを意識した旋律をつくる かについて思いや意図をもつ。 ・つなげ方や反復の使い方を知る。 ・つくった旋律を互いに聴き合う。 ・つなげ方を工夫して8小節の旋律をつ くる。 ・つくった旋律を、拍を感じて演奏でき るように練習する。	○つなげた例と反復の例を示して聴かせたり演奏さ せたりすることで、8小節の旋律のつくり方を理 解できるようにする。 ○つなげる順番や、反復の使い方をいろいろ試して 演奏させることで、工夫の仕方で音楽の感じが変 わることを理解できるようにする。 ○固定のペアをつくり、ペア同士で拍を取りなが ら演奏を聴き合って練習できるようにする。			
7	○つくった旋律を聴き合い、旋律のつな げ方の工夫やよさを伝え合う。 ・つくった旋律を練習する。 ・固定のペアで聴き合い、互いの旋律の つなげ方の工夫やよさを伝え合う。 ・いくつかのペアと互いにつくった旋律 の演奏を聴き合い、工夫やよさを伝え 合う。 ・学級全体に広めたい工夫をしているペ アの旋律を紹介する。 ・まとめと振り返りをする。	○楽譜を見せ合って演奏を聴くことで、つなげ方の 工夫やよさを視覚的にも感じ取れるようにする。 ○何度か演奏して聴き合うことで、工夫やよさに気 付けるようにする。 ○いくつかのグループとつくった旋律を聴き合い、 いろいろな工夫に気付けるようにする。 ○書画カメラでペアの楽譜をスクリーンに映し、工 夫やよさを伝えやすいようにする。 ○自分たちがどんな工夫をしたのか、他のグルー プの工夫から学んだことは何かなどを振り返らせる。	② 観 察 ・ 聴 取 ・ 記 述		② 観 察 ・ 聴 取 ・ 記 述

8 本時の学習指導について（6 / 7時）

(1) 目標

- ・旋律の動きを生かしたり、つなげ方を工夫したりして、どのようにまとまりを意識した旋律をつくるかについて、思いや意図をもつ。（思考力、判断力、表現力等）
- ・日本の音楽に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に旋律をつくる学習に取り組み、日本の音楽に親しむ。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 展開

○学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○旋律の音の動きを生かして、つなげ方を工夫してどのようにまとまりを意識した旋律をつくるかについて、思いや意図をもつ。</p> <p style="text-align: center;">つくったせんりつをつなげたりくり返したりして、まとまりのある8小節のせんりつをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら さくら」の演奏を聴き、つなげ方の確認をする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鑑賞と関連させることで、旋律のつなげ方の工夫について具体的に理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの旋律の例を聴き、旋律の動きの特徴を感じ取る。 ・つなげる順番の工夫について知る。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児童につなげ方を考えさせ、それを例に挙げて指導することで児童の意欲を高め、主体的に活動できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くり返しを使った工夫について知る。 例 ア→ウ→イ→ウ ア→イ→エ→エ ・つくった旋律を聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人でつくった旋律を、ペアの友達とつなげたりくり返したりしてまとまりのある音楽をつくることを知らせ、見通しをもたせる。 ○課題に対する自分のめあてをもたせ、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○「さくら さくら」の楽譜を見ながら、旋律がどのようにつなげられていたりくり返されたりしているのかについて確認し、音楽づくりの参考となるようにする。 ○旋律カードを見せながら聴かせることで、旋律の動きによってそれぞれ違った特徴をもっていることを感じ取らせる。 ○何人かの児童に自分の考えやその理由を発表させ、教師が演奏して聴かせることで、同じ旋律を使ってもつなげ方によって音楽の感じが変ることを感じ取れるようにする。 ○二つの例の演奏を聴かせることで、くり返しの使い方がちがうと音楽の感じが変ることを感じ取れるようにする。 ○くり返しを用いると、まとまりのある旋律になることを感じ取らせる。 ○ペアの友達と互いにつくった旋律を聴き合い、それぞれの旋律の特徴をつかめるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・つなげる順番を工夫して8小節の旋律をつくる。 ・くり返しを使って8小節の旋律をつくる。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">自分が感じ取り考えたことを基に試しながら、自分の工夫やその理由をワークシートに記入し、他の児童にわかりやすく伝え積極的に話し合っている児童が見受けられたことから、Aとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍を感じて演奏できるようにする。 ・固定のペアと協力して演奏したり、聴き合ったりする。 ・本時のまとめと振り返りをする。 <p style="text-align: center;">P126 指導計画作成の留意事項②</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">第5・6・7時と3時間にわたって評価をする。本時では、自分や他のペアのつくった旋律のよさについて、音楽的な根拠を基に工夫と関連させて記入していた児童がいたことから、Aとする。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">互いの旋律を何度も聴き合ったり一緒に演奏したりして、それぞれの旋律の動きの特徴を感じ取った上で、ペアの旋律づくりの活動ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○つくった2小節の旋律の特徴を生かして工夫するよう助言する。 ○互いの思いや意図を伝え合い、演奏して試しながら旋律づくりができるようにする。 ○リコーダーの演奏が苦手な児童がいるペアは、教師と一緒に演奏したりペアの友達の演奏を聴かせたりして旋律づくりができるようにする。 ○ペアの旋律が完成したら、ワークシートに旋律カードを貼り、楽譜を完成させる。 <p>☆思②（観察・聴取・記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○くり返し演奏し、つくった旋律のよさを表現できるようにする。 ○固定のペアをつくり、互いに拍を取りながら聴き合って練習することで、息を合わせて演奏できるようにする。 ○自分のめあてに対する振り返りをし、本時の学習で感じたことや分かったこと、頑張ったこと、次の時間に頑張りたいことなどをワークシートに記入できるようにする。 <p>☆態②（観察・聴取・記述）</p>

(3) 板書計画

つくったせんりつをつなげたりくり返したりして、まとまりのある8小節のせんりつをつくろう。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「さくら さくら」 の楽譜</div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">例 ア</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">例 イ</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">例 ウ</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">例 エ</td></tr> </table>	例 ア	例 イ	例 ウ	例 エ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">つなげ方をくふう</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">例のカードを並べて 8小節の旋律例を 提示する。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">くり返しを使つてくふう</div> <div style="border: 1px dashed black; width: 100%; height: 50px;"></div>
例 ア							
例 イ							
例 ウ							
例 エ							

児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、ワークシートに目標と身につけたい力を示す。

日本の音楽でつながろう③

4年__組__番 氏名_____
ペア_____さん

授業の見通し

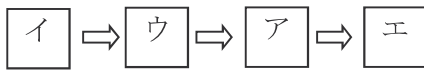
時間	この時間の目標	身につけたい力
1	こと・三味線・三線の音楽を聴いて、それぞれの音色の特徴を感じ取る。	こと・三味線・三線の音色の特徴を感じ取る力。
2・3	ことの演奏の仕方や楽譜の読み方を知り、音色や響きに気を付けて演奏する。	音色や響きに気を付けてことを演奏する力。
4	ことの音色や音楽の特徴が生み出す曲や演奏のよさを見つながら聴く。	ことの音色や変化が生み出す曲や演奏のよさを見いだしながら聴く力。
5	★1 5つの音から音を選んで、まとまりのある旋律をつくる。	5つの音から旋律をつくる力、および言葉や楽譜で表す力。
6・7	★2 旋律の動きを生かし、つなげたりくり返したりして、まとまりを意識した旋律をつくる。 ★3	まとまりを意識した旋律づくりへの思いや意図をもつ力、および言葉や楽譜で表す力。

★1 下の5つの音とリズムを使って、4分の4拍子で2小節のせんりつを2つ作りましょう。最後は、ラカレの音で終わりにしましょう。

- ①教科書〇〇ページのワークシートを使って作りましょう。
 - ②つくったせんりつを「せんりつカード」に記入しましょう。（3枚ずつ作る）
- ※カードには、1人目「ア・イ」2人目「ウ・エ」の記号をつけましょう。

★2 ペアの友だちと、せんりつをつなげたりくり返したりして、8小節のせんりつを作りましょう。※演奏して試しながら作りましょう。

①つなげ方をふうしたせんりつ



①のようにつなげた理由

(記入例)

- ・動きがはげしいせんりつとゆるやかな動きのせんりつを交互につなげて、感じの変化を楽しめるようにした。
- ・最後は終わる感じにしたかったから「エ」にした。

②くり返しを使ってくふうしたせんりつ

図②の記述を見取る部分

2 本時の学習指導と評価、授業改善の考え方

- (1) 本時の学習指導に当たっては、児童がつくった旋律をペアの友達と互いに聴き合い、旋律の動きによる特徴を感じ取らせることで、つなげ方の工夫へとつながるよう留意する。また、演奏して試しながらつくることで、音楽の感じが変わることを感じ取れるようにする。
- (2) 本時の評価に当たっては、旋律のつなげ方を理解し、思いや意図をもってまとまりを意識した旋律をつくっている児童をBとする。工夫例を示し、その旋律を聴かせたり演奏させたりすることで、児童が8小節の旋律のつくり方を理解できるように留意する。
- (3) 本時の評価結果は、ペアの友達と協働することで、C評価となる児童が少なかった。しかし、片方の児童の思いや意図に偏った音楽づくりとなってしまったペアもあった。固定のペアを設定したことによって、相互評価につながり互いに高め合うことができた。8小節という条件のため、思いや意図を十分に生かしていないと感じている児童もいた。この結果を基に、次のように指導の改善を図る。
 - ①3人グループにすることで、苦手な部分を補い合うとともに他の児童との対話的な学びが進められるように学習形態の改善をする。その際に、それぞれがつくったどの旋律を使うことで、まとまりのある旋律をつくることができるかを考えさせる。
 - ②児童の思いや意図を尊重し、グループでつくる旋律は8小節に限らず、まとまりのある旋律であれば小節数を増やしてよいこととする。このような配慮を行うことで、音楽づくりの楽しさを児童に味わわせるようにする。

第5 音楽科における学習評価の評定への総括例

1 観点別学習状況の評価の例

題材終了時には、蓄積した学習評価をもとに、三つの観点ごとに題材の観点別学習状況の評価をする。その際、1時間ごとの評価は、学習指導要領の示す教科の目標に準拠した適切な評価を行うことが基本となるが、児童のよい点や進歩の状況を把握し、評価することも大切である。

評価において、児童が実現している学習の状況が「十分満足できる」質的な高まりや深まりをもっていると判断される場合に「A」とする。また、「おおむね満足できる」とされるものを「B」、「努力を要する」とされるものを「C」とする。

総括する際に、例えば「AAB」を「A」又は「B」、「BBCC」を「B」又は「C」のどちらに判断するかについては、あらかじめ学校で決められた基準により共通理解を図り、判断の方法や手順を決めておく必要がある。

<第5学年の例>

題材名「和音のひびきを味わおう」（4時間扱い）～本題材における児童の観点別学習状況の評価例～

児童：○○○さん

<知識・技能> B

<思考・判断・表現> B

<主体的に学習に取り組む態度> B

児童：△△△さん

<知識・技能> A

<思考・判断・表現> B

<主体的に学習に取り組む態度> A

時間	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度				
	2	4	総括	3	2	総括	3	1	4	総括	
児童名	評価方法	技能の様子	技能の様子	感想・発表等	ワークシート		ワークシート	現しようとする態度	観察（思いや意図を表現しようとする態度）	観察（思いや意図を表現しようとする態度）	
	○○○	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
△△△	A	B	A	B	B	B	A	A	A	A	

2 学期末における観点ごとの評価の総括例

(1) 学期末の観点別学習状況の評価

学期末には、題材ごとの観点別の評価を総括し、三つの観点別学習状況の評価を行う。

<第3学年の例>

	知識・技能										思考・判断・表現										主体的に学習に取り組む態度													
	明るい歌声をひびかせて歌おう	リコーダーとなかよしになろう	リズムをかんじて楽しもう	せんりつのとくちようをかんじて楽しもう	いろいろな音のひびきをかんじて楽しもう	学期末	学年末	日本の音楽のよさを見つけよう	音を合わせる楽しさを味わおう	学期末	学年末	明るい歌声をひびかせて歌おう	リコーダーとなかよしになろう	リズムをかんじて楽しもう	せんりつのとくちようをかんじて楽しもう	いろいろな音のひびきをかんじて楽しもう	学期末	学年末	日本の音楽のよさを見つけよう	音を合わせる楽しさを味わおう	学期末	学年末	明るい歌声をひびかせて歌おう	リコーダーとなかよしになろう	リズムをかんじて楽しもう	せんりつのとくちようをかんじて楽しもう	いろいろな音のひびきをかんじて楽しもう	学期末	学年末	日本の音楽のよさを見つけよう	音を合わせる楽しさを味わおう	学期末	学年末	
○	B	B	B	B	B	B	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A	B	A	A	B	B	B	A	A	A	A	A	B	A	A	B	B	B	A
◇	B	B	B	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B

(2) 学年末の観点別学習状況の評価及び評定への総括

学年末には、各学期の観点別の評価を総括し、三つの観点別学習状況の評価を行う。評定は「ABCの数」や「ABCを点数化した数値」等で行うこともできる。その際、学習指導要領の示す教科の目標に準拠した評価となっているか、観点別学習状況の評価や評定に示しきれない感性や思いやりなどについても、個人内評価として児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況など評価する。

音楽

